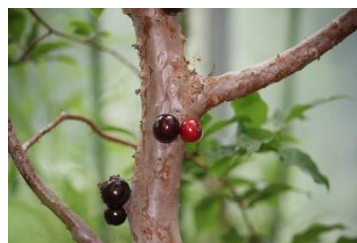


薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2019年
8月27日
第71号



オシロイバナ（オシロイバナ科）

園内、管理棟近くソテツの木の近くでロート状の花が見られます。ペルーなど熱帯アメリカ原産で、1800年代に渡来し、鑑賞用に栽培されている多年草です。町中に野生化しているものも見られます。一つの株に赤、白、ピンク、黄など色とりどりの花を咲かせます。メンデルの遺伝の法則で例外（不完全優性）の説明に出てくる植物ですね。秋に黒くなった種を潰すと白粉（おしろい）のような粉が出ることから、この名がつけました。名づけ親は江戸時代の本草学者、貝原益軒のようです。葉を民間で、擦り傷、タムシに用いると聞きますが、私は試したことがありません。根、種子にアルカロイドのトリゴネリンを含み、誤食すると嘔吐、腹痛、激しい下痢をおこすので、注意が必要です。

ジャボチカバ（フトモモ科）

温室では今、ジャボチカバの果実が見られます。ブラジル原産で幹生花であり幹生果です。幹から直接花が咲き、そのまま果実になります。ジャボチカバは、ちょうどブドウの巨峰のような実がポコポコと木に付くので、かつてはキブドウ *Myrciaria* 属に分類されていましたが、現在は近縁ですが別の *Plinia* 属に分類されています。果実は緑色から紫褐色に変わっていきます。成長が遅いうえ、収穫後の日持ちが非常に悪く、すぐ発酵してしまうことから、流通ルートにはなかなか乗りません。果皮にアントシアニンを多く含むことから、抗酸化、抗糖尿病作用を期待した健康食品化が一時期、期待されました。ブラジルでは果物としてパック詰めで売られており、1パック300円くらいとか！自家結実するので、1本でも実がなる植物です。